

# 2020年度事業報告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

## 1. 庶務関係

- (1) 会員数の状況(令和3年3月31日現在) ( ) 内前年同期増減

ブロック	正会員	学生会員	総数
東北・北海道	106 (-4)	4 (±0)	110 (-4)
関 東	443 (-36)	29 (-9)	472 (-45)
東 海・北 陸	134 (-10)	3 (±0)	137 (-10)
近 畿	233 (-14)	21 (-7)	254 (-21)
中 国・四 国	128 (+3)	9 (-1)	137 (+2)
九 州	108 (-14)	2 (±0)	110 (-14)
海 外	6 (-2)	0 (±0)	8 (±0)
計	1,158 (-77)	68 (-17)	1,226 (-94)

団体会員 160 団体、賛助会員 46 団体、顧問 3 名

- (2) 代議員総会の開催

令和2年6月7日(日)お茶の水女子大学にて開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令を受け、みなし総会開催に変更し、決議は6月8日に成立した。

- (3) 年次大会の開催

令和2年8月27日(木)、28日(金)郡山女子大学にて開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の大会は中止とした。

- (4) 一般社団法人日本調理科学会創立50周年記念出版事業の継続実施

創立50周年記念出版事業として、記念出版委員会を中心に、全国約350名の会員が引き続きシリーズ「伝え継ぐ日本の家庭料理」の出版に取り組み、第11回～14回配本分を刊行した。本事業は2021年度まで継続し、第16回配本まで刊行する予定である。なお、この事業により、本学会は、3月29日に第5回「食生活ジャーナリスト大賞(食文化部門)」を受賞した。

- (5) 研究の奨励及び研究業績等の表彰

学会賞1名、奨励賞2名、功労賞4名の表彰をした。なお、若手研究者発表奨励賞の表彰は大会を中止としたため今年度は行わなかった。

- (6) 会議の開催

- ① 理事会 6回(みなし開催4/20、5/18、6/26、2/15 オンライン開催8/31、1/25)
- ② 編集委員会 5回
- ③ 学会賞選考委員会 2回
- ④ 刊行委員会 3回

## 2. 企画・広報関係

- (1) 年次大会、次年度講演会、9月から始まる研究会企画を中心とした活動を行った。
- (2) 6月7日(日)講演会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令を受け中止とした。
- (3) 新しい生活様式における調理学実習のガイドライン策定を目標に、会員に「COVID-19下における調理学実習に関するアンケート」を行った。ワーキンググループを立ち上げ、アンケート結果をもとにガイドライン案を作成、その後寄せられたパブリックコメントを反映し、「COVID-19の感染症拡大防止に配慮した調理学実習実施のガイドライン」を学会HPに掲載した。

## 3. 常置委員会関係

- (1) 編集委員会 『日本調理科学会誌』の発行 年6回発行 A4判

第53巻 第2号1,700部、第3号1,700部、第4号1,700部、第5号1,700部、第6号1,700部  
第54巻 第1号1,600部

編集・刊行

- ① 論文投稿状況(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

報文18編、ノート・資料15編、教材研究1編 計34編

## ② 論文審査状況

令和3年3月31日現在

区分	掲載済	印刷待ち	著者取り下げ	却下	審査・訂正中	計
平成30年度投稿	31	0	4	8	0	43
2019年度投稿	28	1	2	9	1	41
2020年度投稿	11	5	2	6	10	34

## ③学会誌53巻2～6号および54巻1号掲載発行状況

区分	2号	3号	4号	5号	6号	1号	合計
報文	3	4	2	2	2	2	15
ノート・資料	3	1	4	3	2	4	17
総説	0	1	1	1	1	1	5
講座	1	1	1	1	1	1	6
教材研究	1	1	1	1	1	1	6
クッキングルーム	1	1	1	1	1	1	6
トピックス&オピニオン	1	1	1	1	1	1	6
新刊紹介	2	0	1	1	0	0	4
ページ数	88	72	72	67	65	72	436

④学会誌は発行1か月以内に電子版をJ-STAGEにて公開した。

⑤投稿規程等の見直しを行った。

## (2) 情報管理委員会

①事務局と協力しホームページ等の管理、運用を行った。

②2020年度大会演題登録はアトラス社の Confit Submission を利用して行う予定にしていた。

③メール・ニュースを4月22日号より1月27日号まで計17回発行した。メール・ニュース用のアドレス更新を年4回6月、8月、10月、12月に行った。

④転載申請に対し許諾の判断を行った。場合により学術著作権協会への申請を依頼した。

## 4. 渉外関係

(1) 日本学術会議協力学術団体として生活科学系コンソーシアムの活動を行った。

(2) 下記の関連学協会と事業の共催、協賛、情報交換を行った。

(一社)日本家政学会、日本家庭科教育学会、日本食生活学会、(一社)日本官能評価学会、日本熱物性学会、日本高圧力学会、(公社)日本食品科学工学会、(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団、(公財)塩事業センター、(公財)不二たん白質研究振興財団、(一社)日本レオロジー学会、(特非)うま味インフォメーションセンター、日本食品・機械研究会、日本熱測定学会、(公社)日本冷凍空調学会、(公財)ソルト・サイエンス研究財団、その他の学協会

## 5. 研究委員会関係

(1) 災害時メニュー開発に関する研究委員会は、2020年度大会において認定NPO法人キャンパーとともに大会実行委員会の協力のもと、8月27日(木)昼食のデモ調理を行う予定であったが、大会中止のため実施を見送った。

(2) 次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究委員会は、2020年度大会において46都道府県の研究委員が「行事食」をテーマにポスター発表を行う予定だったが、大会中止を受け、2021年度大会に持ち越すことになった。大会では、ポスター発表(会場掲示とeポスターによるオンライン配信の併用)とZoomミーティングを用いた情報交換会、および「伝え継ぐ日本の家庭料理」完結記念講演会に伴う委員会活動に関する展示を行うことが決定された。また2020年度大会で配布を予定していた平成30年度、2019年度ポスター発表データのCDについても2021年度大会で配布することとした。

## 6. 特別委員会関係

刊行委員会は、創立40周年記念事業である日本調理科学会監修のクックリーサイエンスシリーズの刊行に取り組んできたが、記念出版としての期限を設け、今後2025年12月までに提出された原稿を出版対象として、翌年にかけて編集作業を進め、刊行することとした。